

第5次総合計画の検証から見てきた問題・課題

第6次総合計画における指標設定等

指標

進捗管理

問題点

①設定した指標のミスマッチ

- 一部の指標について、施策の達成度を測るものとしてふさわしくないと考えられる指標が設定されている。
- 指標を追っても、目指す姿の達成度合いを判断できない。

(例)

- 【個別施策】
低所得者への支援
- 【目標値】
生活保護率
生活保護率は上がると良いのか、下がると良いのか。

②目標値の設定が非現実的

- 到底、実現が難しい目標値が散見される。
- 無理な目標値を設定している。

(例)

- 【個別施策】
広報・広聴活動の充実
- 【目標指標】
広報紙を読んでいる市民の割合 100%
(目標値 2022年度)

③指標の数が多くことによる弊害

- 指標の数が計188（再掲含む）。
- 内部事務が煩雑になるだけでなく、審議会提出資料としてはボリュームが多すぎる。

④各課における評価が指標に捉われてしまう

- 指標は、各施策における目指す姿の達成度を測るためのものであったが、個別の指標値の増減について評価してしまっている。
- 課を横断する施策について、総合的な評価ができていない。
- 今後、施策をどうしていこうかという評価になっていない。

改善方針

①適切な指標の設定

- 施策の「目指す姿」の達成度を測るものとしてふさわしい指標の設定。

②目標値設定の整理

- 他自治体等との比較から、現状を把握。そこから「他自治体と同程度を目指す」といった目標地設定へ。
- 他自治体との比較ができない場合は、過去の事例と比較を参考に、場合によっては具体的な数値ではなく、トレンド（上昇、下降、維持）を設定。

③審議会資料の再構成または指標の減少

- 各課作成資料をもとに審議会資料を再構成し、審議会資料のボリュームを減らす。
- または
- 指標数を減らす。=資料のボリューム減少。

④評価手法の見直し

- 個別の指標に捉われるのではなく、指標の結果を総合的に判断して、施策の達成度合いを評価する。

①施策の「目指す姿」の達成度を測る指標へ

- 「取組みの方向性」ではなく、施策単位で指標を設定する。この結果、指標数も減少する。

②他市町等と比較できる指標へ

- 指標設定にあたっては、可能な限り公開されている統計データ等を使用する。これにより、他市町との関係から現状を把握し、目標値を設定できるほか、指標値の増減について、それが犬山市だけの傾向なのか、全体の傾向なのかを把握することが可能となる。ただし、統計データについては、公開時期が数年後になるものや数年おきにしか調査を実施しないものがある。
- 施策に対応する適切なオープンデータがない場合には、市独自データや市民意識調査（アンケート）結果を用いることとする。ただし、市民意識調査については、予算の関係で指標の把握は数年しかできない。

③評価資料作成手法の見直し

- これまでは、各課において指標の直近値に基づく評価を実施。
- 6次総の評価等では、
- ①企画広報課において、各課協力のもと指標の直近の値を把握。
- ②各課において、「取組みの方向性」に基づいて実施した事業についての評価コメントを作成。（何ができた、できていない。）
- ③企画広報課において、施策の「目指す姿」の達成度合いを見ながら、「取組みの方向性」との関係をもとめる。